

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成24年2月14日

【四半期会計期間】 第39期第3四半期(自平成23年10月1日至平成23年12月31日)

【会社名】 リゾートトラスト株式会社

【英訳名】 RESORTTRUST, INC.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 伊藤 勝康

【本店の所在の場所】 名古屋市中区東桜二丁目18番31号

【電話番号】 052 - 933 - 6000(大代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員 経営企画・IR室長 相川 千絵

【最寄りの連絡場所】 名古屋市中区東桜二丁目18番31号

【電話番号】 052 - 933 - 6000(大代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員 経営企画・IR室長 相川 千絵

【縦覧に供する場所】  
リゾートトラスト株式会社 東京本社  
(東京都渋谷区代々木四丁目36番19号リゾートトラスト東京ビル)  
リゾートトラスト株式会社 大阪支社  
(大阪市北区西天満四丁目15番18号 プラザ梅新)  
リゾートトラスト株式会社 横浜支社  
(横浜市港北区新横浜3-19-1 LIVMO ライジングビル3F)  
リゾートトラスト株式会社 静岡支店  
(静岡市葵区栄町三番地1 あいおいニッセイ同和損保静岡第一ビル6F)  
株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)  
株式会社名古屋証券取引所  
(名古屋市中区栄三丁目8番20号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第38期 第3四半期 連結累計期間	第39期 第3四半期 連結累計期間	第38期
会計期間		自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日	自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日	自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日
売上高	(百万円)	73,991	74,409	108,976
経常利益	(百万円)	10,190	9,261	13,341
四半期(当期)純利益	(百万円)	5,507	5,636	3,300
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	5,210	5,497	2,660
純資産額	(百万円)	63,499	65,838	61,379
総資産額	(百万円)	251,392	239,416	237,359
1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)	119.22	120.77	71.37
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)	118.75	120.67	71.08
自己資本比率	(%)	22.5	24.6	23.0
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	8,230	13,021	14,126
投資活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	7,264	11,682	5,962
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	9,125	1,294	19,131
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(百万円)	24,254	24,621	21,446

回次		第38期 第3四半期 連結会計期間	第39期 第3四半期 連結会計期間
会計期間		自 平成22年10月1日 至 平成22年12月31日	自 平成23年10月1日 至 平成23年12月31日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	36.97	44.17

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 第38期第3四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用し、遡及処理しております。
- 4 第39期第1四半期連結会計期間より、潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額の算定にあたり「1株当たり当期純利益に関する会計基準」(企業会計基準第2号 平成22年6月30日)及び「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第4号 平成22年6月30日公表分)を適用しております。これに伴い、第38期第3四半期連結累計期間及び第38期の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、当該会計方針の変更を反映した遡及修正後の数値を記載しております。

#### 2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社の異動は、以下のとおりであります。

(ゴルフ事業) 取得による企業結合：(株)関西ゴルフ倶楽部

この結果、平成23年12月31日現在では、当社グループは、当社、連結子会社19社及び持分法適用会社3社により構成されることとなりました。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 経営成績の分析

	前第3四半期 連結累計期間	当第3四半期 連結累計期間	前年同期比
売上高	73,991百万円	74,409百万円	0.6%
営業利益	10,241百万円	8,400百万円	18.0%
経常利益	10,190百万円	9,261百万円	9.1%
四半期純利益	5,507百万円	5,636百万円	2.4%

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の影響で停滞していた生産活動に回復の動きが見られるようになっておりますが、欧州財政不安や長期化する円高などの影響を受け、依然として先行き不透明な状況にあります。

こうした中、当社グループの第3四半期連結累計期間の状況は、当初懸念された震災の影響も限定的で、会員制リゾートホテル「XIV（エクシブ）」の利用客数が前年同期並みを維持できたこと、前期（平成23年3月18日）に開業を迎えた高級会員制リゾートホテル「エクシブ有馬離宮」が通期稼動したことに加え、新規販売開始した「エクシブ軽井沢 パセオ」、「エクシブ軽井沢サンクチュアリ・ヴィラ ムセオ」を始めとするリゾートホテル会員権の販売が好調に推移しましたが、前年同期と比較しますと会員権契約高が減少したため、売上高は74,409百万円（前年同期比0.6%増）、営業利益は8,400百万円（前年同期比18.0%減）、経常利益は9,261百万円（前年同期比9.1%減）、四半期純利益は5,636百万円（前年同期比2.4%増）となりました。なお、被災地支援活動の状況については、当第3四半期連結累計期間において、キャンペーンとして実施しておりました施設売上からの義援金1億円、並びに当社施設のお客様からの募金及び6月に開催いたしました女子プロゴルフトーナメント「リゾートトラストレディス」での募金を福島県へ寄付したほか、ホテルでは東北産食材を使用した特別ディナーを提供するなど、継続的に支援活動を行っております。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。なお、「セグメント利益」は営業利益であります。

(会員権事業)

	前第3四半期 連結累計期間	当第3四半期 連結累計期間	前年同期比
売上高	20,704百万円	19,921百万円	3.8%
セグメント利益	4,171百万円	2,286百万円	45.2%

会員権事業におきましては、「エクシブ有馬離宮」や新規販売開始となった「エクシブ軽井沢 パセオ」、「エクシブ軽井沢サンクチュアリ・ヴィラ ムセオ」の会員権販売が好調に推移しましたが、契約高が減少したことなどにより減収減益となりました。

(ホテルレストラン等事業)

	前第3四半期 連結累計期間	当第3四半期 連結累計期間	前年同期比
売上高	40,756百万円	40,213百万円	1.3%
セグメント利益	4,923百万円	4,933百万円	0.2%

ホテルレストラン等事業におきましては、前期（平成23年3月18日）に開業した高級会員制リゾートホテル「エクシブ有馬離宮」が通期稼働し、その運営収益や年会費等が収益貢献しましたが、前年同期に連結子会社であった第一アドシステム(株)が子会社でなくなった影響などにより減収増益となりました。

(ゴルフ事業)

	前第3四半期 連結累計期間	当第3四半期 連結累計期間	前年同期比
売上高	6,150百万円	6,176百万円	0.4%
セグメント利益	498百万円	436百万円	12.5%

ゴルフ事業におきましては、ゴルフ会員権の販売が増加しましたが、震災の影響でグランディ那須白河ゴルフクラブ（福島県）が一時クローズしていたことなどにより増収減益となりました。

(メディカル事業)

	前第3四半期 連結累計期間	当第3四半期 連結累計期間	前年同期比
売上高	6,192百万円	7,761百万円	25.3%
セグメント利益	499百万円	605百万円	21.2%

メディカル事業におきましては、当期より医療施設経営コンサルティング業を営む子会社(株)アドバンスト・メディカル・ケアを連結化したこと、メディカル会員権の販売が好調に推移したことなどにより増収増益となりました。

(その他)

	前第3四半期 連結累計期間	当第3四半期 連結累計期間	前年同期比
売上高	187百万円	336百万円	79.3%
セグメント利益	148百万円	137百万円	7.2%

その他におきましては、賃貸料収入が増加しましたが、間接費用の増加などにより増収減益となりました。

(2) 財政状態の分析

(資産)

当第3四半期連結会計期間末の総資産は239,416百万円(前連結会計年度比2,057百万円の増加)となりました。これは、前連結会計年度末に比べ、会員権販売に伴い販売用不動産が5,058百万円、貸付金回収に伴い営業貸付金が1,632百万円それぞれ減少した一方で、現金及び預金が5,141百万円、有価証券が1,995百万円、投資有価証券が2,956百万円それぞれ増加したことなどによるものであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末の負債合計は173,578百万円(前連結会計年度比2,401百万円の減少)となりました。これは、前連結会計年度末に比べ、未竣工物件の販売に伴い前受金が2,258百万円、年会費等の前受収益が3,196百万円、長期借入金が2,659百万円それぞれ増加した一方で、工事代金の支払い等に伴い未払金が8,248百万円減少したことなどによるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は65,838百万円(前連結会計年度比4,458百万円の増加)となりました。これは、前連結会計年度末に比べ、利益剰余金が3,989百万円増加したことなどによるものであります。その結果、当第3四半期連結会計期間末における自己資本比率は24.6%(前連結会計年度比1.6ポイント増)となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況の分析

	前第3四半期 連結累計期間	当第3四半期 連結累計期間
営業活動によるキャッシュ・フロー	8,230百万円	13,021百万円
投資活動によるキャッシュ・フロー	7,264百万円	11,682百万円
財務活動によるキャッシュ・フロー	9,125百万円	1,294百万円
現金及び現金同等物の四半期末残高	24,254百万円	24,621百万円

当第3四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)は、24,621百万円(前年同期比367百万円の増加)となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結累計期間における営業活動による資金は、13,021百万円の増加(前年同期比4,791百万円の増加)となりました。前年同期比の主な増加要因は、法人税等の支払額が3,731百万円減少したことなどによります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結累計期間における投資活動による資金は、11,682百万円の減少(前年同期比4,417百万円の減少)となりました。前年同期比の主な減少要因は、定期預金の払戻による収入が4,101百万円減少したことなどによります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結累計期間における財務活動による資金は、1,294百万円の増加(前年同期比10,419百万円の増加)となりました。前年同期比の主な増加要因は、借入金及び社債に係る収支が9,473百万円増加したことなどによります。

#### (4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当連結会社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

なお、当社は財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針を定めており、その内容等（会社法施行規則第118条第3号に掲げる事項）は次のとおりであります。

##### 買収防衛策について

##### 株式会社の支配に関する基本方針

##### 当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針の概要

当社取締役会は、公開会社として当社株式の自由な売買を認める以上、特定の者の大規模な買付行為に応じて当社株式の売却を行うか否かは、最終的には当社株式を保有する当社株主の皆様の判断に委ねられるべきものであると考えます。

当社は、大規模な買付行為を行う買付者は、株主の皆様の判断のために、当該買付行為に関する必要かつ十分な情報を当社取締役会に事前に提供し、当社取締役会の意見形成や代替案作成のための一定の評価期間が経過した後のみ当該買付行為を開始する必要があると考えております。

また、大規模買付行為の中には、当該買付行為が企業価値ひいては株主共同の利益を著しく損なうものと認められるものもないとは言えません。当社はかかる大規模な買付行為に対して、当社取締役会が適切と考える方策をとるとも、企業価値ひいては株主共同の利益を守るために必要であると考えております。

##### 当社の財産の有効な活用、適切な企業集団の形成その他の会社支配に関する基本方針の実現に資する特別な取組みの概要

##### (a) 中期経営計画に基づく取組み

当社グループは、平成20年4月にスタートした中期5ヶ年経営計画「エクセレント・ホスピタリティ計画」において、既存事業の強化と共に、お客様層の拡大や会員制リゾート事業で培ったノウハウを活かした新規事業展開を目指しております。

「エクセレント・ホスピタリティ計画」の基本戦略は以下の通りです。

##### 既存事業の強化

関東圏の販売力を強化する一方で、既存ホテルの収益力向上と安定的なビジネスモデル構築に取り組む他、ハイセンス・ハイクオリティを追求したゴルフ場運営や、メディカル事業についても、検診を主体とした事業から総合的に健康をサポートする事業への発展を推進していきます。

#### 顧客ターゲットの拡大

これまで会員制リゾート事業で培ったサービス・ノウハウを活かし、マーケットの増加が見込まれるアクティブシニア層や、東アジア圏の海外富裕層の取り込みなど、新たな顧客層開拓を目指します。

#### 新規事業の成長

当社グループの14万人以上の会員に対し、新たな付加価値やサービスの提供、当社が培ってきたホテルの食事、医療ネットワークなどの強みを活かし、今後マーケットの拡大が見込まれるシニアレジデンスなどシニアライフ事業の充実を目指します。

これらの事業間の連携で、グループのシナジー効果を最大限発揮し、組織力強化を図ることで持続的成長を目指します。また、新たな成長基盤を構築するとともに、コンプライアンスを強化してさらなる企業価値を創造することにより、株主共同の利益の向上を図ってまいります。

#### (b) コーポレートガバナンス強化への取組み

当社は、株主をはじめお客様、取引先、地域社会、従業員すべてのステークホルダーから信頼される企業となるため、コーポレートガバナンスの充実を経営上の重要な課題として位置づけています。企業倫理と遵法を徹底するとともに、内部統制システムを整備し、経営の透明性を確保することに努めています。その一環として、株主総会の充実、取締役会の意思決定の迅速化、および監督機能の強化、監査役の監査機能の強化等に取り組んでいます。

#### 基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組みの概要

当社は上記基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止する取組みとして、「当社株式の大規模買付への対応方針」（以下「本対応方針」といいます。）を、導入しております。

本対応方針では、当社株式に対し20%以上の大規模買付行為を行おうとする者（以下「大規模買付者」といいます。）が大規模買付行為実施前に遵守すべき、大規模買付行為に関する合理的なルール（以下「大規模買付ルール」といいます。）を定めております。大規模買付ルールは、当社株主の皆様が大規模買付行為に応じるか否かを判断するために必要な情報や、当社取締役会の意見を提供し、更には当社株主の皆様が当社取締役会の代替案の提示を受ける機会を確保することを目的としております。当社取締役会は、大規模買付者に対し、大規模買付行為に関する必要かつ十分な情報を当社取締役会に提供することを要請し、当該情報の提供完了後、大規模買付行為の評価検討のための期間を設定し、当社取締役会としての意見形成や必要に応じ代替案の策定を行い、公表することとします。従いまして、大規模買付行為は、取締役会の評価検討の期間の経過後にのみ開始されるものとします。大規模買付者が、大規模買付ルールを遵守した場合は、当社取締役会は、当該大規模買付行為が、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を著しく毀損することが明白と判断される場合を除き、対抗措置をとりません。他方、大規模買付者が、大規模買付ルールを遵守しなかった場合には、当社取締役会は、当社企業価値ひいては株主共同の利益を守ることを目的として、必要かつ相当な範囲内において会社法その他の法律及び当社定款が認める対抗措置をとり、大規模買付行為に対抗することがあります。

本対応方針は、平成22年6月開催の当社定時株主総会において、その更新について株主の皆様のご承認を賜り同日から発効しており、その有効期限は、同日から3年内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会終結の時までとなっております。

本対応方針が、会社の支配に関する基本方針に沿うものであり、株主共同の利益を損なうものではないこと、会社役員の地位の維持を目的とするものではないこと及びその理由

本対応方針は、買収防衛策に関する指針等の要件の充足していること、本対応方針が会社支配に関する基本方針の考え方に沿って設計されたものであること、本対応方針が当社株主の共同の利益を損なうものではないこと、合理的な手続きが定められ、独立委員会の活用等、取締役会による適正な運用が担保されていること等の理由から、基本方針に沿い、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を損なうものではなく、かつ、当社経営陣の地位の維持を目的とするものではないと考えております。

本対応方針の詳細につきましてはインターネット上の当社ウェブサイトに掲載しております。

(アドレス <http://www.resorttrust.co.jp/>)

#### (5) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間の研究開発費の総額は308百万円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

#### (6) 経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通し

わが国における今後の経済情勢につきましては、平成23年3月11日の東日本大震災の発生以降、円高による企業収益の悪化や株安、並びに米国・欧州の財政不安などによる世界的な景気の停滞感などの各種影響により、当面の国内景気は見通し困難な状況にあります。余暇関連産業・市場の動向においても、引き続き国内の自粛ムードや電力需給問題などによる消費者マインドの低下が予想され、非常に厳しい経営環境が続くものと考えております。こうした中、当社グループは会員制リゾートホテル業界のリーディングカンパニーとして、リゾートホテルや医療関連サービスなど社会にやすらぎを提供するホスピタリティ産業に携わる企業として、グループ一丸となって被災地支援活動を継続して取り組んでまいりたいと考えております。

今後、復興需要も含め、国内景気の緩やかな回復が予想され、また、原発問題等により一時的に減少している海外からの旅行ニーズも中期的には大きな回復の原動力となることが期待されます。また、アクティブシニアの増加、余暇ニーズ・健康志向の高まりは、わが国における長期的な趨勢と予想されます。

こうした環境に即し、当社グループは、既存事業の徹底強化を図り、より安定的な収益基盤を確立することと、顧客ターゲットの拡大・新規事業ビジネスモデル構築を柱とし、最上のホスピタリティを提供する「エクセレント・ホスピタリティ・グループ」となることを目指します。また、企業の成長源泉である人材の育成を行い、事業の持続的な成長を可能にする組織・風土を確立するとともに、企業としての社会的責任を重視し、コンプライアンスの徹底や内部統制システムの整備にも継続して取り組み、リゾートトラストグループの総合力を発揮し、さらなる収益力の強化と企業価値の向上を図ってまいります。



### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	150,000,000
計	150,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成23年12月31日)	提出日 現在発行数(株) (平成24年2月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	51,705,748	51,705,748	東京証券取引所 (市場第一部) 名古屋証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100株 であります。
計	51,705,748	51,705,748	-	-

(注)提出日現在発行数には、平成24年2月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は、含まれておりません。

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成23年12月31日		51,705		14,258		13,906

##### (6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成23年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成23年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 4,992,300	4,522	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 46,432,000	464,320	-
単元未満株式	普通株式 281,448	-	-
発行済株式総数	51,705,748	-	-
総株主の議決権	-	468,842	-

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」及び「単元未満株式」の欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式がそれぞれ2,600株(議決権26個)及び64株含まれております。

2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式16株が含まれております。

【自己株式等】

平成23年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合(%)
(自己保有株式) リゾートトラスト株式会社	名古屋市中区東桜二 丁目18番31号	4,540,100	452,200	4,992,300	9.66
計	-	4,540,100	452,200	4,992,300	9.66

(注) 他人名義で所有している理由等

E S O P「株式給付信託(従業員持株会発展型プラン)」の信託財産として、資産管理サービス信託銀行株式会社(信託口)(東京都中央区晴海1丁目8-12)が所有しております。

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりであります。

役職の異動

新役名及び職名		旧役名及び職名		氏名	異動年月日
取締役	業務部門業務担当 兼人事部長	取締役	業務部門業務担当	宮田 修造	平成23年10月1日

## 第4 【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号、以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、四半期連結財務諸表規則第5条の2第3項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成23年10月1日から平成23年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】  
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	14,514	19,655
受取手形及び売掛金	3,676	4,227
営業貸付金	26,313	24,681
有価証券	13,999	15,995
商品	352	412
販売用不動産	23,608	18,550
原材料及び貯蔵品	859	1,098
仕掛販売用不動産	9,949	10,334
繰延税金資産	4,640	3,993
その他	2,962	3,407
貸倒引当金	829	747
流動資産合計	100,047	101,608
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物及び構築物（純額）	54,359	52,848
機械装置及び運搬具（純額）	2,338	2,048
コース勘定	12,337	12,840
土地	26,515	27,012
建設仮勘定	1,287	1,877
その他（純額）	5,384	4,754
有形固定資産合計	102,223	101,382
<b>無形固定資産</b>		
のれん	292	255
ソフトウェア	1,253	1,059
その他	2,287	2,214
無形固定資産合計	3,833	3,529
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	10,742	13,699
関係会社株式	1,893	1,258
長期貸付金	3,592	3,493
繰延税金資産	2,133	2,105
その他	19,221	18,518
貸倒引当金	6,317	6,176
投資損失引当金	10	3
投資その他の資産合計	31,254	32,895
<b>固定資産合計</b>	137,311	137,808
<b>資産合計</b>	237,359	239,416

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	642	1,179
短期借入金	2,110	2,050
1年内返済予定の長期借入金	9,869	9,498
1年内償還予定の社債	1,924	1,790
未払金	13,109	4,860
未払法人税等	2,398	723
未払消費税等	371	824
前受金	810	3,068
前受収益	6,817	10,013
債務保証損失引当金	34	71
災害損失引当金	744	183
その他	6,819	6,417
流動負債合計	45,652	40,681
固定負債		
社債	5,175	5,250
長期借入金	10,786	13,446
繰延税金負債	2,243	1,949
退職給付引当金	849	1,139
役員退職慰労引当金	1,447	1,502
長期預り保証金	103,772	103,412
負ののれん	945	855
その他	5,105	5,341
固定負債合計	130,326	132,896
負債合計	175,979	173,578
純資産の部		
株主資本		
資本金	14,258	14,258
資本剰余金	13,906	13,906
利益剰余金	35,016	39,006
自己株式	8,369	8,088
株主資本合計	54,811	59,082
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	198	239
その他の包括利益累計額合計	198	239
新株予約権	366	532
少数株主持分	6,400	6,463
純資産合計	61,379	65,838
負債純資産合計	237,359	239,416

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
売上高	73,991	74,409
売上原価	13,906	13,794
売上総利益	60,084	60,615
販売費及び一般管理費		
給料及び賞与	19,058	20,093
役員退職慰労引当金繰入額	41	54
修繕維持費	1,567	1,546
債務保証損失引当金繰入額	-	37
水道光熱費	3,071	3,332
減価償却費	4,166	4,238
その他	21,937	22,912
販売費及び一般管理費合計	49,843	52,214
営業利益	10,241	8,400
営業外収益		
受取利息	192	208
受取配当金	22	24
割賦利息及び手数料	8	5
投資損失引当金戻入額	-	6
持分法による投資利益	6	6
負ののれん償却額	100	90
貸倒引当金戻入額	-	218
保険解約返戻金	-	436
その他	124	293
営業外収益合計	453	1,290
営業外費用		
支払利息及び社債利息	179	155
前受金保証料	36	13
シンジケートローン手数料	60	31
控除対象外消費税等	163	121
その他	65	107
営業外費用合計	505	428
経常利益	10,190	9,261

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
<b>特別利益</b>		
固定資産売却益	3	0
関係会社株式売却益	196	21
投資損失引当金戻入額	6	-
貸倒引当金戻入額	143	-
持分変動利益	-	193
関係会社整理損失引当金戻入額	188	-
その他	4	6
<b>特別利益合計</b>	<b>542</b>	<b>220</b>
<b>特別損失</b>		
固定資産除却損	99	24
固定資産売却損	67	3
投資有価証券評価損	11	6
減損損失	-	163
災害による損失	-	159
関係会社株式売却損	0	-
貸倒損失	13	-
貸倒引当金繰入額	288	-
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	29	-
年会費期間配分修正損	359	-
その他	70	24
<b>特別損失合計</b>	<b>938</b>	<b>381</b>
<b>税金等調整前四半期純利益</b>	<b>9,793</b>	<b>9,100</b>
法人税、住民税及び事業税	2,982	3,186
法人税等調整額	1,274	374
法人税等合計	4,256	3,561
<b>少数株主損益調整前四半期純利益</b>	<b>5,537</b>	<b>5,538</b>
少数株主利益又は少数株主損失( )	30	98
<b>四半期純利益</b>	<b>5,507</b>	<b>5,636</b>

【四半期連結包括利益計算書】  
 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	5,537	5,538
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	327	41
その他の包括利益合計	327	41
四半期包括利益	5,210	5,497
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	5,179	5,596
少数株主に係る四半期包括利益	30	98



## (3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	9,793	9,100
減価償却費	4,551	4,576
減損損失	-	163
のれん及び負ののれん償却額	41	27
貸倒引当金の増減額（は減少）	568	223
退職給付引当金の増減額（は減少）	303	261
役員退職慰労引当金の増減額（は減少）	126	54
受取利息及び受取配当金	214	233
支払利息及び社債利息	179	155
投資有価証券評価損益（は益）	11	6
投資損失引当金の増減額（は減少）	6	6
売上債権の増減額（は増加）	345	1,146
たな卸資産の増減額（は増加）	1,990	4,178
仕入債務の増減額（は減少）	259	532
未払金の増減額（は減少）	3,915	6,185
前受金の増減額（は減少）	2,247	2,258
長期預り保証金の増減額（は減少）	22	359
未払消費税等の増減額（は減少）	65	435
その他	2,007	2,149
小計	16,903	17,983
利息及び配当金の受取額	264	224
利息の支払額	167	148
法人税等の支払額	8,769	5,037
営業活動によるキャッシュ・フロー	8,230	13,021
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	2,481	1,969
定期預金の払戻による収入	6,631	2,529
有価証券の取得による支出	22,898	50,483
有価証券の売却及び償還による収入	14,500	47,000
投資有価証券の取得による支出	2,399	3,692
投資有価証券の売却及び償還による収入	1,000	200
関係会社株式の取得による支出	29	32
関係会社株式の売却による収入	92	68
有形及び無形固定資産の取得による支出	3,450	4,133
貸付けによる支出	444	60
貸付金の回収による収入	985	91
その他	1,228	1,198
投資活動によるキャッシュ・フロー	7,264	11,682

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額（は減少）	6,600	60
長期借入れによる収入	9,530	11,323
長期借入金の返済による支出	9,098	9,033
社債の発行による収入	-	1,075
社債の償還による支出	1,159	1,159
自己株式の取得による支出	1	0
自己株式の処分による収入	65	182
配当金の支払額	1,847	1,400
少数株主への配当金の支払額	0	0
その他	14	367
財務活動によるキャッシュ・フロー	9,125	1,294
<b>現金及び現金同等物に係る換算差額</b>		
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	8,159	2,633
現金及び現金同等物の期首残高	31,592	21,446
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額（は減少）	821	540
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 24,254	1 24,621

【継続企業の前提に関する事項】

該当事項はありません。

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

当第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)
(連結の範囲の重要な変更) 第1四半期連結会計期間より、非連結子会社でありました㈱アドバンスト・メディカル・ケアは重要性が増したため、連結の範囲に含めております。 第2四半期連結会計期間より、株式取得により子会社となりました㈱関西ゴルフ倶楽部を連結の範囲に含めております。

【会計方針の変更等】

当第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)
(会計方針の変更) 第1四半期連結会計期間より、「1株当たり当期純利益に関する会計基準」(企業会計基準第2号 平成22年6月30日)及び「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第4号 平成22年6月30日公表分)を適用しております。 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定にあたり、一定期間の勤務後に権利が確定するストック・オプションについて、権利の行使により払い込まれると仮定した場合の入金額に、ストック・オプションの公正な評価額のうち、将来企業が提供されるサービスに係る分を含める方法に変更しております。 なお、これによる影響については、「1株当たり情報に関する注記」に記載しております。

【追加情報】

当第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)						
(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用) 第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。						
(退職給付引当金) 当社及び一部の連結子会社は、平成23年4月1日に退職年金支給規定の改定を行い、税制適格退職年金制度から確定給付企業年金制度へ移行いたしました。これに伴い、「退職給付制度間の移行等に関する会計処理」(企業会計基準適用指針第1号)を適用したことにより、当事業年度において退職給付債務が346百万円減少しております。 なお、当該過去勤務債務は発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(5年)による定額法により、発生年度より償却しております。						
(法人税率の変更等による影響) 平成23年12月2日に「経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律」(平成23年法律第114号)及び「東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法」(平成23年法律第117号)が公布され、平成24年4月1日以降開始する事業年度より法人税率が変更されることとなりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用される法定実効税率は、一時差異等に係る解消時期に応じて以下のとおりとなります。 <table style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>平成24年3月31日まで</td> <td style="text-align: right;">40.6%</td> </tr> <tr> <td>平成24年4月1日から平成27年3月31日</td> <td style="text-align: right;">37.7%</td> </tr> <tr> <td>平成27年4月1日以降</td> <td style="text-align: right;">35.3%</td> </tr> </table> この税率の変更により、当第3四半期連結累計期間における繰延税金資産が424百万円減少し、繰延税金負債が271百万円減少、法人税等調整額が134百万円増加し、その他有価証券評価差額金が19百万円減少しております。	平成24年3月31日まで	40.6%	平成24年4月1日から平成27年3月31日	37.7%	平成27年4月1日以降	35.3%
平成24年3月31日まで	40.6%					
平成24年4月1日から平成27年3月31日	37.7%					
平成27年4月1日以降	35.3%					

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
保証債務	保証債務
会員等の金融機関とのローン契約に対する保証	会員等の金融機関とのローン契約に対する保証
エクシブ会員 1,133百万円	エクシブ会員 2,802百万円
ベイコート倶楽部会員 1,642百万円	ベイコート倶楽部会員 2,855百万円
サンメンバーズフレックス会員 0百万円	サンメンバーズフレックス会員 1百万円
ハイメディック会員 114百万円	ハイメディック会員 413百万円
ゴルフ会員 107百万円	ゴルフ会員 132百万円
クルーザークラブ会員 4百万円	クルーザークラブ会員 5百万円
計 3,001百万円	計 6,211百万円

(四半期連結損益計算書関係)

前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成22年12月31日現在)	1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成23年12月31日現在)
現金及び預金 14,894百万円	現金及び預金 19,655百万円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金及び担保預金 1,509百万円	預入期間が3ヶ月を超える定期預金及び担保預金 1,609百万円
有価証券勘定に計上されている取得日から3ヶ月以内に償還期限が到来する譲渡性預金 10,800百万円	有価証券勘定に計上されている取得日から3ヶ月以内に償還期限が到来する譲渡性預金 6,500百万円
その他流動資産勘定に計上されているコールローン 68百万円	その他流動資産勘定に計上されているコールローン 75百万円
現金及び現金同等物 24,254百万円	現金及び現金同等物 24,621百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年6月29日 定時株主総会	普通株式	923	20	平成22年3月31日	平成22年6月30日	利益剰余金
平成22年11月11日 取締役会	普通株式	923	20	平成22年9月30日	平成22年12月10日	利益剰余金

- 2 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの  
 該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年6月29日 定時株主総会	普通株式	471	10	平成23年3月31日	平成23年6月30日	利益剰余金
平成23年11月14日 取締役会	普通株式	943	20	平成23年9月30日	平成23年12月9日	利益剰余金

(注) 配当金の総額は、E S O P「株式給付信託(従業員持株会発展型プラン)」導入において設定した、資産管理サービス信託銀行株式会社(信託口)所有の当社株式に対する配当金を含めて記載しております。その内訳は以下のとおりです。

平成23年3月31日を基準日とする配当金 507,000株に対する配当金 5百万円

平成23年9月30日を基準日とする配当金 452,200株に対する配当金 9百万円

- 2 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの  
 該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年12月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)	合計
	会員権事業	ホテルレスト ラン等事業	ゴルフ事業	メディカル 事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	20,704	40,756	6,150	6,192	73,803	187	73,991
セグメント間の内部売上 高又は振替高	15	1,569	47	1	1,633	401	2,035
計	20,719	42,326	6,197	6,194	75,437	589	76,026
セグメント利益	4,171	4,923	498	499	10,092	148	10,241

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸業、別荘管理業等を含んで  
 おります。

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の  
 主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利 益	金 額
報告セグメント計	10,092
「その他」の区分の利益	148
四半期連結損益計算書の営業利益	10,241

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「メディカル事業」セグメントにおいて、下記ののれんの金額が変動しております。

当社グループが積極的な展開を図っているシニアレジデンス事業を発展させるにあたっての基盤とする  
 ため、トラストガーデン(株)の株式を取得し、連結子会社としたことによりのれんが発生しております。

また、従来は非連結子会社でありました(株)ウェル・トラスト及びヒューマンライフサービス(株)も同様に  
 今期より連結の範囲に含めたことにより、未認識でありましたのれん及び負ののれんを計上してありま  
 す。

なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間においては374百万円であり、負のの  
 れんの増加額は当第3四半期連結累計期間においては1,066百万円であります。

当第3四半期連結累計期間（自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日）

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント					その他 (注)	合計
	会員権事業	ホテルレスト ラン等事業	ゴルフ事業	メディカル 事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	19,921	40,213	6,176	7,761	74,073	336	74,409
セグメント間の内部売上 高又は振替高	6	1,825	42	2	1,877	239	2,116
計	19,928	42,039	6,219	7,763	75,950	575	76,526
セグメント利益	2,286	4,933	436	605	8,262	137	8,400

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸業、別荘管理業等を含んでおります。

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の  
 主な内容（差異調整に関する事項）

（単位：百万円）

利 益	金 額
報告セグメント計	8,262
「その他」の区分の利益	137
四半期連結損益計算書の営業利益	8,400

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（のれんの金額の重要な変動）

「ゴルフ事業」セグメントにおいて、平成23年9月30日付で(株)関西ゴルフ倶楽部の株式を取得し、子会社化したことによりのれんが発生しております。

なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間においては26百万円であります。

（金融商品関係）

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

（有価証券関係）

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

（デリバティブ取引関係）

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

（企業結合等関係）

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	119円22銭	120円77銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	5,507	5,636
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	5,507	5,636
普通株式の期中平均株式数(千株)	46,192	46,674
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	118円75銭	120円67銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額(百万円)	-	-
普通株式増加数(千株)	185	38
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	新株予約権方式の ストックオプション 取締役会決議日 平成22年6月29日 新株予約権 9,972個 普通株式 997,200株 発行価格 1,339円 行使期間 平成22年11月1日～ 平成27年6月29日	新株予約権方式の ストックオプション 取締役会決議日 平成23年6月29日 新株予約権 9,978個 普通株式 997,800株 発行価格 1,041円 行使期間 平成23年11月1日～ 平成28年6月29日

(会計方針の変更)

第1四半期連結会計期間より、「1株当たり当期純利益に関する会計基準」(企業会計基準第2号 平成22年6月30日)及び「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第4号 平成22年6月30日公表分)を適用しております。

潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定にあたり、一定期間の勤務後に権利が確定するストック・オプションについて、権利の行使により払い込まれると仮定した場合の入金額に、ストック・オプションの公正な評価額のうち、将来企業が提供されるサービスに係る分を含める方法に変更しております。

これらの会計基準等を適用しなかった場合の前第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額は、118円71銭であります。



(重要な後発事象)

当第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

株式会社ウェル・トラストは、平成24年1月1日付で、同社を存続会社として、ヒューマンライフサービス株式会社を吸収合併いたしました。なお、これらの合併当事会社は、いずれも当社の100%連結子会社であります。

共通支配下の取引等

(1) 取引の概要

結合当事企業の名称及びその事業の内容

(存続会社)

名称 株式会社ウェル・トラスト

事業の内容 居宅介護サービス事業

(消滅会社)

名称 ヒューマンライフサービス株式会社

事業の内容 居宅介護サービス事業

企業結合日

平成24年1月1日

企業結合の法的形式

株式会社ウェル・トラスト(当社の連結子会社)を吸収合併存続会社、ヒューマンライフサービス株式会社(当社の連結子会社)を吸収合併消滅会社とする吸収合併

結合後企業の名称

株式会社ウェル・トラスト(当社の連結子会社)

その他取引の概要に関する事項

株式会社ウェル・トラストとヒューマンライフサービス株式会社はシニアライフ事業(介護付有料老人ホーム)をそれぞれ独立した事業体として個別に運営を行っていましたが、今後、同じグループとしてシニアライフ事業の更なる拡大とサービスの向上を目指すために、それぞれの会社組織が持つ事業運営のノウハウを結集することを目的として合併するものです。

(2) 実施する会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成20年12月26日)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 平成20年12月26日)に基づき、共通支配下の取引として処理を行います。

2 【その他】

第39期(平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)中間配当について、平成23年11月14日開催の取締役会において、平成23年9月30日の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議し、配当を行っております。

配当金の総額 943百万円

1株当たりの金額 20円00銭

支払請求権の効力発生日及び支払開始日 平成23年12月9日

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年2月14日

リゾートトラスト株式会社  
取締役会 御中

### 有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士 佐藤 茂
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士 岡野 英生
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士 久野 誠一

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているリゾートトラスト株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成23年10月1日から平成23年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、リゾートトラスト株式会社及び連結子会社の平成23年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。  
以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。